

つくば・市民ネットワーク通信 第13号

発行：つくば・市民ネットワーク 発行責任者：阿部登代子 つくば市千現 1-18-5-101 Tel&Fax：029-859-0264

E-mail：tsukubahotnet@ybb.ne.jp ホームページ：http://www.geocities.jp/tsukubahotnet/

エコバッグ・フォーラム in つくば開催

循環型社会は市民、行政、事業者の協働から!

つくば・市民ネットワークは市内で環境問題に取り組む他団体と「つくばエコライフフレンズ」を立ち上げ、11月17日エコバッグ・フォーラム in つくばを開催しました。事業者、行政にも呼びかけ、参加者60人が一堂に会し、情報と意見の交換をしました。

基調講演では舟木賢徳氏が「レジ袋一何が問題なの?～エコバッグから始まる地球環境保護の小さな一歩～」と題してレジ袋問題を解説。国内のレジ袋年間消費量は30万トン、国民1人当たり1日約1枚利用されており、1枚焼却するとCO₂60gを排出、そのごみ処理費用は140億円。放置されたレジ袋は道路に散乱し海洋生物にも悪影響、レジ袋削減のために色々試されてきたが、有料化が一番効果があるとのお話でした。

市のリサイクル推進課からは、最終処分場の余命は約15年しかなく、ごみ減量、リサイクル率アップが急務であるとの報告がありました。また、ジャスコ、カスミの担当者からは、実際に他市でレジ袋の無料配布を中止したところ、エコバッグ持参率が8~9割になった、進めるには消費者の理解が重要との報告でした。

また筑波大学生から学生の意識調査の報告があり、最後にエコライフフレンズがジャスコ、カスミ、とりせんの各店頭で848人に実施したアンケート調査について報告しました。現在エコバッグを使っていない人でも「レジ袋が有料化すればエコバッグを使う」という答えが多く(70%)、レジ袋削減に有料化が効果的であるとわかりました。

今回のフォーラムでは、市民・事業者・行政ともにごみ減量と循環型社会を目指していると確認できたことが大きな成果です。今後、つくば・市民ネットワークは、市民・事業者・行政の連携によるレジ袋無料配布の中止を目指し、さらにごみの減量、CO₂の削減など「使い捨てから循環型へ」社会の仕組みを変えていきたいと考えます。



新たな年を迎えて

つくば・市民ネットワーク代表

阿部 登代子

新年明けましておめでとうございます。

市民自治を志し発足した市民ネットワークも、皆様に支えられ2人の代理人を市議会に送り出してから3年が経ちました。この間、各方面で活動されている多くの市民グループの方々と話し合い行動を共にする機会に恵まれました。遺伝子組み換え作物栽培のガイドライン制定、学校図書館の充実、健全な住環境維持のための高さ制限、市民協働ガイドラインづくりなど、多くの成果を上げることができました。これは、これまでの市民活動に代理人のしくみが加わった結果であると自負しております。

今後は議会改革と市政の透明性を高めるよう働きかけ、まちづくりのための政策や税金の使い方などを行政まかせにしない市民自治を進めたいと考えます。

これまでも増して皆様の市民ネットワークへの積極的な参加をお待ちしております。



男女共同参画推進計画

第3次計画策定中…

男女共同参画社会とは性別にかかわらず、人権を尊重し、責任を分かちあい、個性と能力を十分に発揮できる社会です。つくば市では第3次男女共同参画推進基本計画の策定を進めています。現在パブ



つくば市議会議員
環境経済常任委員会所属
ながい えつこ
永井悦子

一般質問項目

1. 市民協働ガイドライン策定について
2. 男女共同参画推進計画について
3. 環境行政について

リックコメントが終了し、まとめに入ったところです。これまで市は、参画課から参画室への縮小、予算の削減など、**年々推進体制の後退が顕著になっています**。そこで一般質問で第3次計画の進捗状況と市長の見解をたずねました。

男女共同参画の現状は…

市は今回の策定にあたり 2000 世帯に意識調査を行いました（回収率 30%）。その結果、「男女の地位は平等になっているか」の間に、学校教育の場面では男女平等が実現できていると感じる人が 50%以上でしたが、**政治や日常生活、社会全体では依然として男性が優遇されていると感じている人は男性で約 60%、女性では約 80%でした**。また、市役所内の現状は女性管理職が 21%（H18）と少なく、育児休暇を利用した男性職員がこれまで 1 名のみで、男女共同参画を推進すべき行政でさえ、実現できていない状況です。

一方、自由記述では「男女共同参画の必要性に疑問」という意見が聞かれました。しかし男女差別は時代変化と共に形を変えて存在しており、常に男女平等に敏感でいなければなりません。**身体的な違い**

から「女性はこういうものだ、男性だからこうだ」という固定観念が、性差別や偏見を生んでしまうのではないのでしょうか。まずは何事も「性別にかかわらず」を基本に考えることが大切です。

推進体制の強化を！

男性が家事・育児に参加しやすい環境づくり、セクシャルハラスメント防止、政策決定過程への女性参画の推進など、男女共同参画を進めることは社会の様々な問題を解決する糸口です。

市は男女共同参画社会の形成を重要課題と位置づけ、審議会の充実、男女共同参画センター設置など推進体制を強化し、第3次推進計画を確実に実施すべきと考えます。

私たちも「男だから」「女だから」といった固定観念や偏見を自らが無意識に生みだしていないか、今一度見直してみましよう！



地球温暖化対策

本気で取り組もう！

地球温暖化が現実となり、政府は 7 月の洞爺湖サミットに温暖化防止の数値目標と実行策を示そうとしています。

そこで昨年 12 月筑波大、筑波研究学園都市交流協議会、内閣府などが主催し、関連 3 研究所、県・市の協賛により「第 1 回つくば 3E（環境、エネルギー、経済）フォーラム」が開催されました。「**2030 年までに CO₂ の 50% 削減とそのシティーモデル構築**」が目標です。

6%削減が実行できないのに、どうやって 50%削減を実現するのか。サミット前の第 2 回フォーラムで行動計画が示される予定です。つくば市は、**まず市内全体の CO₂ 排出量の実態を調査し、2002 年策定の「地域新エネルギービジョン」を生かした具体案を検討して欲しい**と思います。



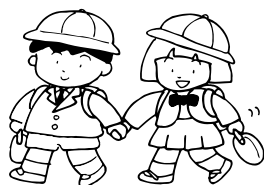
地域の声を生かし、つくばらしい学校を

学区の再編すすむ

つくば市は、市立の幼稚園が 17、小学校は 38、中学校は 14 と同じ規模の自治体に比べて多くの学校をかかえています。集団生活を学ぶための適正規模を考えれば、時代とともに生活が変わり、人の暮らし方も変わってきているのですから、学区を再編成し、学校のあり方を見直して行くのは必要なことです。

昨年、児童数の変動も大きいことから、●**将来のつくば市に見込まれる幼・小・中学校数について** ●**将来の学校の適正配置について** ●**その中長期的展望について** の3点が学区審議会で5回にわたって審議され、答申が示されました。また、市は春日地区にH24年開校予定で新設校の計画をしています。ここに小中連携の新しいスタイルを組み込む案を検討していますが、具体的な学校の様相や学区などについては、まだ決定されていません。

つくば市内には子どもたちが増える地域ばかりではなく、児童が減って複式学級や一学年一学級だけの学校経営を余儀なくされている小規模な学校もあります。既に筑波小に統合された筑波第一小だけでなく、H20年度には大形小と小田小の統合が決まっています。



検討過程をオープンに

学校には子どもたちが学ぶための場所というだけでなく、地域文化や防災活動の拠点という役目も

あります。特に長い歴史のある学校では、周辺地域の人たちの理解を得ることが不可欠です。それは新しい住宅地でも同じで、どこで何が話され、決められていくのかわかれば、保護者の不安は少なくなります。統廃合にしても、新設にしても、情報をオープンにして地域との連携を図りながら進めていくべきです。

つくば市議会議員

文教福祉常任委員会所属

せと ゆ み こ
瀬戸 裕美子



一般質問項目

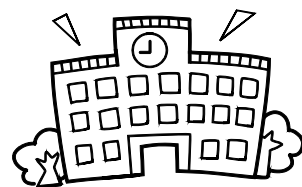
1. 学区審議会の答申と春日地区の小・中学校新設について
2. 学校図書館の充実について

変化していくまちの様子を受けとめ、地域で学校を支える。そのために幅広い対象者に対して意見交換や説明の場を設けることを、市に要望しました。

“子どもを育てるのなら

つくば市で”

そんなキャッチフレーズが聞かれるようになったら素敵ですね。



エコライフを自転車で

今議会で、Q't 東側つくば駅A5出口そばに駐輪場を新設すること、駐輪場を使用する際の不正行為に対して5万円を上限とする罰金を設けることが決まりました。

そこで、駐輪場の様子を見に行ってみました。定期利用の月極め駐輪場はまだ余裕がありそうですが、一時的に止めるスペースは常に空きのない状態です。駅の近いところに2-3時間程度までなら無料で使える駐輪場が増えれば、自転車をもっと使いやすくなりそうです。



CO₂削減に「車を使わない生活」は効果的。ならば自転車を使う人に優先的なしくみで、もっと環境に優しい暮らしができるはず。

もちろん自転車に乗る人のモラルが守られてこそその話ですが……。

傍聴席から



傍聴席の中学生

12月議会初日の11月27日(火)に、十数人の並木中学一年生が傍聴席に座っていました。総合学習の一環として、環境問題に取り組む市民団体「エコネット」に話を聞くため谷田部庁舎を訪れ、議会傍聴も体験することになったそうです。

当日は大人でも眠くなるような議案の説明と報告が主でした。緊迫した議論の場を間近で見るために、是非、一般質問や委員会、議会最終日に再訪して欲しいと思いました。

さらに、地方自治は市井の人々の参加が欠かせなくなってきた現代です。市民がだれでも気楽に傍聴できる雰囲気づくりはもちろんのこと、どこからでも見ることができるように、議会最終日などもメディアによって公開すべきでしょう。(W)

つくば・市民ネットワークの主な活動報告

- 10/12 介護保険議員学習会参加
- 15 小型風車損害賠償訴訟傍聴
- 20 つくば生活クラブまつり
- 26、11/26 つくば市学区審議会傍聴
- 11/1~2 議会報編集委員会研修(仙台)
- 4 大豆畑トラスト in つくば 収穫
- 10 ハッ場ダムをストップさせる茨城の会総会出席
- 17 エコバッグ・フォーラム in つくば開催
- 27~12/21 12月定例会市議会
- 12/1 六ヶ所村再処理工場本格稼働反対署名統一行動
- 2 つくばのまちづくりを考えるフォーラム参加
- 15 つくば3Eフォーラム参加
- 18 食育推進講演会&意見交換会参加



市議会議員と話そう!会

2月5日(火) 10:00~12:00
並木公民館

(11時~市職員によるゴミの出前講座)

2月6日(水) 13:00~15:00
春日公民館

市議会議員の永井悦子・瀬戸裕美子と交え、議会の報告、身近な問題について話し合います。

市民協働ガイドライン③ 市民を交え策定へ!

つくば市では、NPOや区会、ボランティア団体などの市民と行政による協働事業について、共通した考え方や手続きを定める「市民協働ガイドライン」を作成中です。行政内部で検討した案と、昨年市民ワークショップでまとめた「市民案」を参考に、いよいよ策定懇談会が始まります。懇談会の構成は市民公募1名を含め大学、事業所、研究所、NPO、ボランティア、自治会、市民団体など10名程度の予定です。

市民案では窓口コーディネーターの設置や評価体制など問題解決のための幾つかの提案があり、12月議会では懇談会で検討する旨の答弁がありました。

しかし、今回のガイドラインは、あくまでも協働の手引きなので市民参画を保証する内容は含まれていません。つくば・市民ネットワークは別途「市民参加条例」などの条例が必要と考えています。ガイドラインの進捗を確認しつつ、市民参加が保証される仕組みづくりも働きかけていきます!

つくば・市民ネットワーク総会

2月17日(日)9:30~12:00
国際会議場 小会議室 402



~大豆畑トラスト in つくば~

みそ造り



2月3日(日)9:00~14:00
つくば有機集荷場(手子生)

参加ご希望の方は1月末日までに市民ネットワーク事務所へお申し込みください。

つくば・市民ネットワーク 会員募集中

一緒にまちづくりを考えてみませんか。興味のある方、お気軽にご連絡ください。

Tel&Fax 029-859-0264

編集後記
年4回のネット通信では伝えきれない日々の活動を、ホームページや会員向けメールで発信しています。ぜひご入会を!